

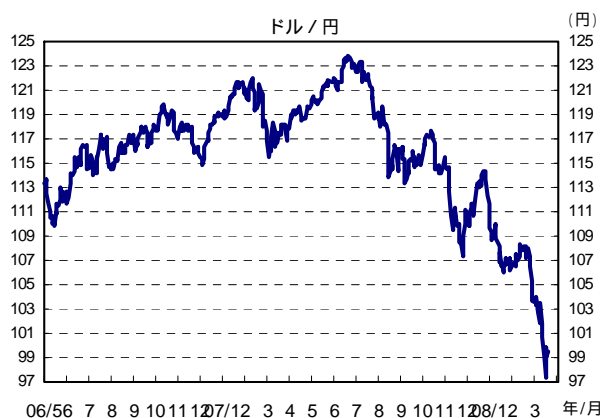
市場営業統括部 チーフ・エコノミスト 山下えつ子
電話 03-3282-5879

来週のポイント

ドル/円： ドル安・円高一服

	週末 正午	次週発行まで	3ヵ月後
ドル/円	99.44 円	98.00-101.00 円	100.00-110.00 円

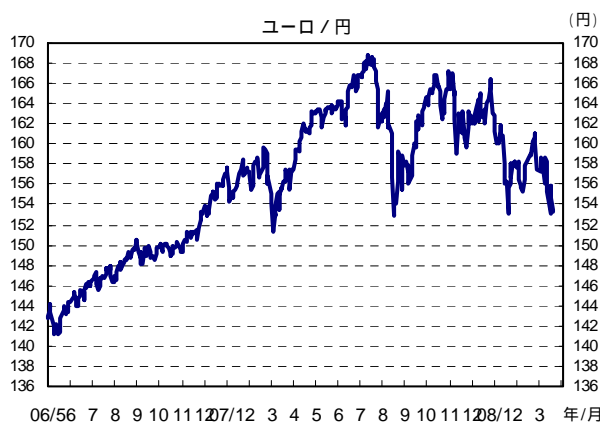
- ・ 投資家心理・資金フローの変化に注目。
- ・ 米経済指標は材料になりにくい。



ユーロ/円： ユーロの頭重い

	週末 正午	次週発行まで	3ヵ月後
ユーロ/円	153.38 円	152.00-155.00 円	150.00-160.00 円
ユーロ/ドル	1.5424 ドル	1.5200-1.5500 ドル	1.4500-1.5500 ドル

- ・ ドルよりもユーロの方が注目される。
- ・ 円は依然として株価次第。



本レポートは本日正午までの情報を元に作成しています。

FOREX WEEKLY は弊行ホームページでもご覧頂けます。
[\(http://www.smbc.co.jp/\)](http://www.smbc.co.jp/) マーケット情報 外国為替
 情報 フォレックス・ウィークリー

本レポートは情報の提供を目的としており、何らかの行動を喚起するものではありません。ここに示した意見は本レポート作成日現在の筆者の意見を示すのみです。投資や資金運用に関する最終決定は、お客様ご自身で判断されるようお願い申し上げます。

足元のマーケット動向、及び来週の見通し

		今週のレンジ	来週の予想レンジ
ドル	ドル/円	95.77-101.15 円	98.00-101.00 円
	ユーロ/ドル	1.5396-1.5905ドル	1.5200-1.5500ドル
ユーロ	ユーロ/円	151.70-157.37円	152.00-155.00円

(今週のレンジは先週金曜日正午～本日正午、予想レンジは本日正午～来週金曜日正午)

Fedによる追加的な流動性供給措置と公定歩合の緊急引き下げ、およびJPモルガン・チェースによるベア・スターンズ買収、といった週末の材料は信用不安を和らげ、18日のFOMCで利下げ幅は75bpsにとどまったものの、一連の材料を背景に今週のマーケットには全般に大きな動きがあった。

クレジット市場ではCDX(米投資適格)スプレッドは14日の191.56から20日には159.25まで縮小、商業用不動産についてもCMBX(AAA格)はクレジット市場全般の悪化でスプレッドは14日には263.33まで拡大していたが20日には193.83まで縮小した。株価は依然としてボラタイルながら、ダウは12000台を回復。また、原油やコモディティ市場には金利低下とインフレ期待から投機資金が流入してきたが今週は大幅に相場下落となり、CRB指数は1週間で8.3%下落した。そして為替市場では、ドル円は100円を割り込んだ水準ながら下げ止まり、ユーロはマーケット全般の大きな調整とともに下落しユーロドルは17日に付けた最高値1.5905から20日は1.5396まで下落、ユーロ円も151.70円まで一時下落。

ここまでマーケットを支配してきたのは信用不安とリセッション懸念。今週はこのうち信用不安がベア・スターンズの救済的な買収などで和らいだ格好だが、過去数ヶ月間にもモノライン関連など、信用不安の高まりと緩和でクレジット市場や株式市場が一時的に反応する局面はあった。上記のような大きな動きも一時的な反発局面に過ぎないのか、それとも流れが変わったのか、見極めが難しいところだ。欧米金融機関の損失を巡るニュースや噂は絶えず、また、米国は既にリセッション入りしているとの指摘も多い。信用不安やリセッション懸念が払拭されて相場反発が長期化するとは思われない。ただ、今週の動きの中では原油・コモディティ相場の急落、為替市場ではドル下げ止まり・ユーロ急反落、といった点が目を引く動きであり、投資家心理やそれに伴う資金フローの変化を注視する必要があるようだ。

来週は米国では消費者信頼感指数、耐久財受注および新築住宅販売件数、といった主要経済指標の発表がある。だが、余程弱い数字でなければ、米国のファンダメンタルズの弱さは新たなドル売り材料には繋がりにくい。一方、今週の動きからは、来週の欧州関連の材料の方が注目される可能性が高い。ユーロ相場は強いドル売り圧力と利下げに対するECBの慎重な姿勢を背景に、対ドルで最高値を更新してきた。さすがにECBからもユーロ高牽制発言が出始めているほか(20日にはECBのパパデモス副総裁が「ここ数週間の為替変動は行き過ぎている」と発言)、欧州の金融機関の損失計上や買収の噂などユーロ売りに繋がる材料に市場の注目が移りつつある。来週はユーロの頭は重い。

円は依然として株価に連動する動きだが、ボラタイルな株式相場のもとでは円相場にも方向感が出ない。日銀総裁人事では総裁空席の事態となったが、為替相場には直接の影響は見られない。(ただ、日本株市場における外国人投資家のセンチメントは冴えない。昨年11月から2月まで4ヶ月連続で日本株は売り越し、3月の前半2週間も大きく売り越し。)日本の政治・経済に対する見方という点からは円高進行は整合的ではない。ドル売り圧力が弱まる来週はそうした観点から円高進行も一服する可能性があるだろう。